

私たち小野測器は、産業界に欠かすことのできない

計測機器を提供しています。

ものづくりにおいて

“数値”は基礎となる重要な指標です。

私たちは未知の現象を数値化し、

計測を通じてあらゆる社会課題を解決することを

目指しています。

現象を正しくはかり、数値やグラフに変換し、

原因と結果をつなぐことでものづくりの発展に貢献する。

そんな「産業のマザーツール」である計測機器を

日々つくり続けています。

小野測器を支える創業の精神



誰もやらないから、挑戦する価値がある

小野測器は、創業者 小野義一郎の“挑戦と創意工夫の積み重ね”から生まれました。戦後間もない日本、趣味で覚えたラジオ修理から“腕のいい電気屋”の口コミで名が広まり、精密級と認められた騒音計が電気試験所に採用されました。その後発明した、水晶発振器の発振周波数を基準にした電子管計数器がデジタルCPUに結びつき、“デジタル技術”として発展しました。

戦時の混乱のさなか、外地で電気工学や機械工学を学び、時代に必要とされた、けれども誰も作ったことがないものに仲間と挑戦し続けたその精神が、今日の小野測器の土台となっています。

2024年、当社は創業70周年を迎えました。人々のライフスタイルや考え方が多様化する今、「100年企業」への成長に向け企業理念（P.7）を再言語化しました。新しい企業理念では、社会が大きく変化している中でも変わらない当社の存在意義と、環境に柔軟に、素早く対応していく未来の姿をしめしています。創業の精神「誰もやらないから、挑戦する価値がある」を受け継ぎながら、計測機器メーカーとして「数値に真摯に向き合う。そして、“はかる”力で社会課題の“今”と“未来”をつなぎ、サステナブルで豊かな未来をともに創っていきたい」という想いが込められています。



Contents

小野測器とは

- 2 創業の精神
- 4 トップメッセージ
- 7 企業理念
- 8 価値創造プロセス
- 9 マテリアリティ

未来を創る成長戦略

- 10 中期経営計画
- 15 各戦略担当役員メッセージ
- 18 MBDへの取り組み
- 20 「モノ→コト→モノの循環」による創出
- 22 グローバルでの市場開拓

価値創造の源流

- 24 事業概要
- 25 セグメント別概況
- 26 未知に挑む社員たち

成長の軌跡

- 32 小野測器の歩み
- 34 はかるでつなぐストーリー
マイクロテック・ラボラトリー

成長を支える基盤

- 35 サステナビリティへの取り組み
- 36 環境への取り組み
- 38 スポンサー活動
- 40 共創イノベーション
- 42 社会貢献活動
- 43 非財務ハイライト
- 44 人財戦略
- 46 女性の活躍推進
- 48 品質への取り組み

コーポレート・ガバナンス

- 49 役員紹介
- 50 社外取締役 座談会
- 51 ガバナンス
- 53 コンプライアンス・リスクマネジメント

Our information

- 56 財務ハイライト／主要財務データ
- 58 会社情報・株式情報

編集方針

本号はステークホルダーの皆様と当グループの建設的な対話促進を図るために発行するものです。

対話を通じ、相互理解の醸成と経営の好循環を生み出すことを目指しています。

対象組織 株式会社 小野測器 <https://www.onosokki.co.jp/corporate/index.html>
関連会社6社（2025年4月現在）

対象期間 2024年1月1日～2024年12月31日

トップメッセージ 私の夢は、当社の製品を通じて、日本はもとより世界中の国々が豊かになることです



代表取締役
取締役社長
大越 祐史

社内でワクワクすることが増えてきた

小野測器は、2025年で創業71年目を迎えました。私が当社で働き始めて、40年の節目を迎える年でもあります。

振り返れば、この40年で世界は目まぐるしく変化しました。私が社会人になりたての頃は、携帯電話はおろか、パソコンもこれほど普及していませんでした。それが今や、タイムマシンが登場する某有名SF映画のような世界が現実になろうとしています。空飛ぶクルマのようにまだ実用化されていない技術もありますが、夢だと思っていたことが、まさか本当に日常になるとは……。世界とは、こうして急速に変化していくのだと日々実感しています。

当社は2024年に企業理念を一新しました。私が掲げた使命は、「未知を拓き、未来を創る」。100年企業を目指してさらなる成長を遂げるためには、これからもあらゆる産業で「未知への挑戦」が続いていくと思います。お客様が実現したい目標に対して、私達も一緒になって解決策を考える、行動することがこれからも必要になってきます。そんなお客様(そして社会)に仲間として認めてもらえる企業。一緒に夢を実現しようと思ってもらえる企業でありたいと思っています。

また私は常日頃、従業員に対して「笑顔あふれる会社にしたい」と話しています。社内には色々な仕事がありますが、それが「面白い」「わくわくする」「やりがいがある」、そう感じる事ができるのが、ビジネスパーソンにとって最大のモチベーションだと思います。当社は、そのように前向きな従業員一人ひとりが活躍してくれたからこそ、71年目を迎えられたのだと

思っています。

私が社長に就任して5年が経ちましたが、組織の根根を取り払った技術系の「ラボ制」の導入などで、少しずつ会社が変わってきたと実感しています。日々、技術者の報告を聞いていると「面白そうだな」と感じる事案が増えてきて、心の底からワクワクしています。

素晴らしいお客様と才気あふれる従業員に恵まれている企業。それが、私にとって理想の「小野測器」です。

ともに未来を創る中期経営計画

当社は2025年に、新たな中期経営計画Challenge Stage IVをスタートさせました。詳しくは後のページをご覧くださいのですが、掲げたテーマは「はかるを極め わかるに挑み世界につなげる」。100年企業を目指して持続的な成長を続けていく。その実現に向けて、従業員とともに未来を創るための計画です。

注目していただきたいポイントは二つあります。一つ目は「デジタル技術への対応」です。2023年に新規事業として、コト売りビジネスである電動車両の「ベンチマーキングレポート」の販売を開始しましたが、おかげさまでお客様にはご好評をいただいています。本ビジネスは新たな好循環も生み出しています。自分達で自分達の計測機器を使ってはかることで「こういう場所をはかりたいから、こんな製品が欲しい」という新たな「製品のシーズ」も生まれています。モノ→コト→モノの循環が生まれている、というわけです。

このサイクルを、当社が得意とする音響振動の分野で活用できるシミュレーションソフトの自社開発にもつなげていきたいと考えています。

当社が長年培ってきたセンシング技術だけでなく、ソフトウェアにもこれまで以上に注力していくということです。シミュレーションソフトも同様に自分たちで使って、どんどん改良を加えていきます。今後は「センシングとソフトウェア」が、当社のポイントとなっていきます。

コロナ禍をターニングポイントとして、世界は大きく変化を遂げました。自動車産業でいえば、試作車レスのモデルベース開発(MBD)が進み、お客様の志向、働き方も大きく変化してきました。そこで当社はMBDをより推進するために、志を同じくするお客様と共創する場所として、愛知県豊田市に「中部リンケージセンター(仮称)」という新たな拠点の建設を予定しています。ただ、当社を取り巻く環境は日々変

化しておりますので、より具体的なお話ができる段階になりましたら、改めて「新拠点で当社が実現したいこと」についてご紹介させていただきます。

二つ目のポイントは「海外市場の拡販」です。まず、2025年4月に発生したミャンマー大地震により被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。当社のタイの拠点は一部に影響を受けましたが、被災された方の復興に少しでも貢献したいと考えています。

当社は現在アメリカ、中国、タイ、インドに現地法人を展開していますが、そこを軸に拡販を狙っていきます。当社が長年磨いてきた「計測機器」の技術力で、世界のものづくりを支えたいと考えています。





目指すは「素晴らしいお客様と従業員に恵まれている企業」

他社とは異なるSDGs施策を展開

当社は創業以来、自動車産業に支えられてここまでくることができました。今後は地球温暖化問題に端を発する持続可能なモビリティ社会に対応していくため、「動力源の電動化」を避けて通ることは難しいでしょう。しかし、いくつもの技術的なブレイクスルーが必要ではあるものの、そこで得られた知見は、航空機など他産業にも横展開できるはずで、当社にとってはとても挑戦しがいがある取り組みです。

そのような環境対応に関して、技術的なアプローチと並行して「カーボンオフセット」という側面からも注力しています。当社は2024年に「環境戦略推進室」を立ち上げ、この問題に積極的に取り組んでいます。「小野測器グリーンファクトリー活動」と銘打って、宇都宮テクニカル&プロダクトセンターを中心に国内全拠点でさまざまな改善策を行った結果、2024年はCO₂排出量（Scope1、Scope2*）を2022年と比較して51%削減することができました。

また「全日本スーパーフォーミュラ選手権（以下SUPER FORMULA）」主催元の株式会社レースプロモーションとパートナーシップを締結し、当社が保有するJ-クレジットを使い、参戦車両の年間のCO₂排出量を実質ゼロにする試みも行っています。長くお世話になっている自動車産業に少しでも貢献したいと考え、当社だけでなく自動車産業の花形であるモータース

ポーツでもSDGsに貢献させていただいています。

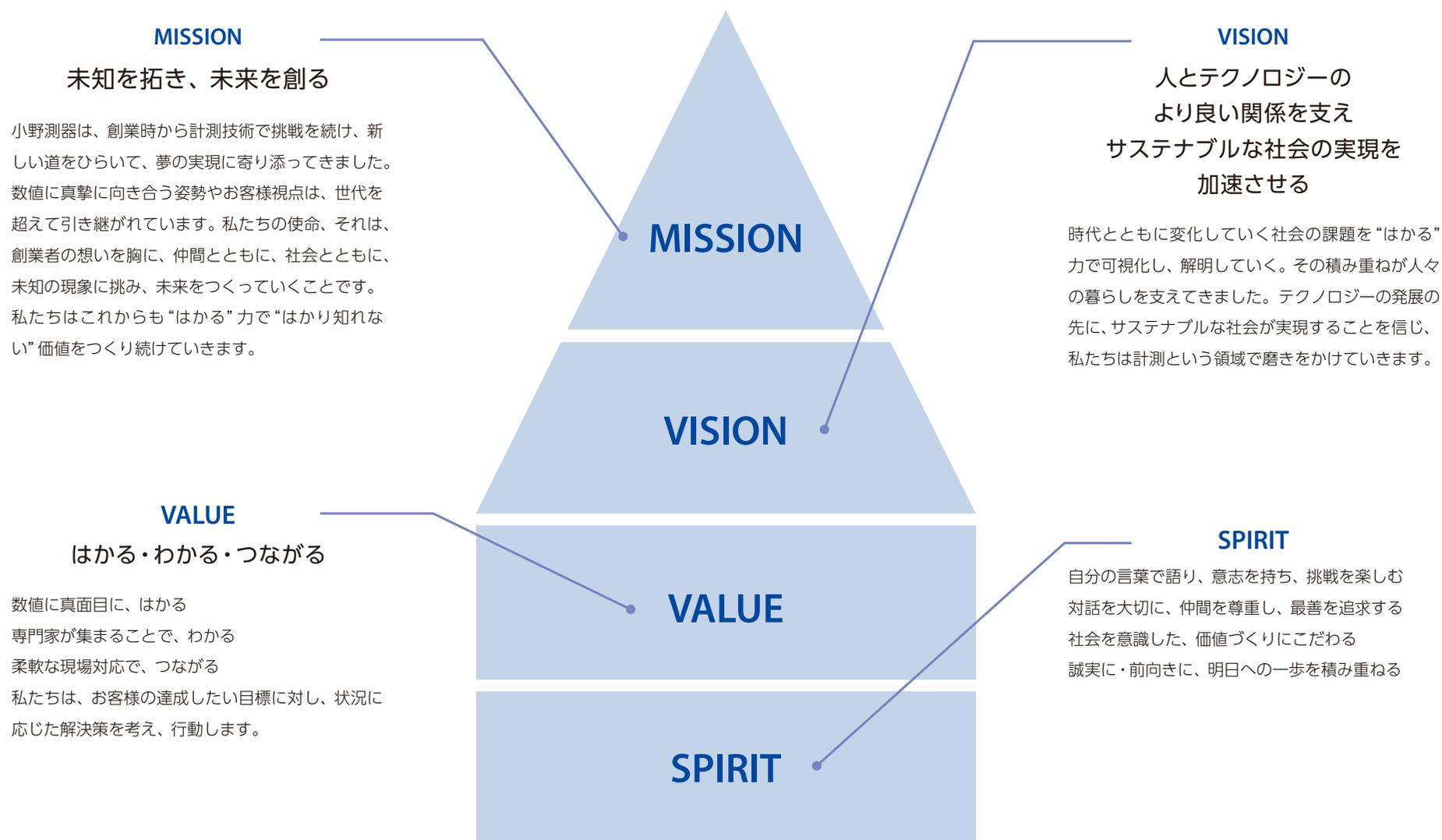
また、2024年に引き続き、若手レーシングドライバーのJuju（野田樹潤）選手のスポンサーも行っています。昨シーズンのSUPER FORMULAは、彼女にとって初挑戦の1年でした。今シーズンは新チームを立ち上げ参戦していますが、厳しい戦いを強いられている状況です。ぜひ結果にこだわり頑張ってほしいと思っています。私も「負けても負けても諦めない」という彼女の信念を胸に刻んでいます。

皆様が笑顔になれる企業を目指して

最後になりましたが、私の夢は、5年後、あるいは10年後、当社の製品を通じて、日本はもとより世界中の国々が豊かになっていることです。計測機器で安心、安全、豊かさを提供したい。従業員だけでなく、世界のユーザー、ステークホルダーの皆様が楽しく、笑顔であってほしいと切に願っています。

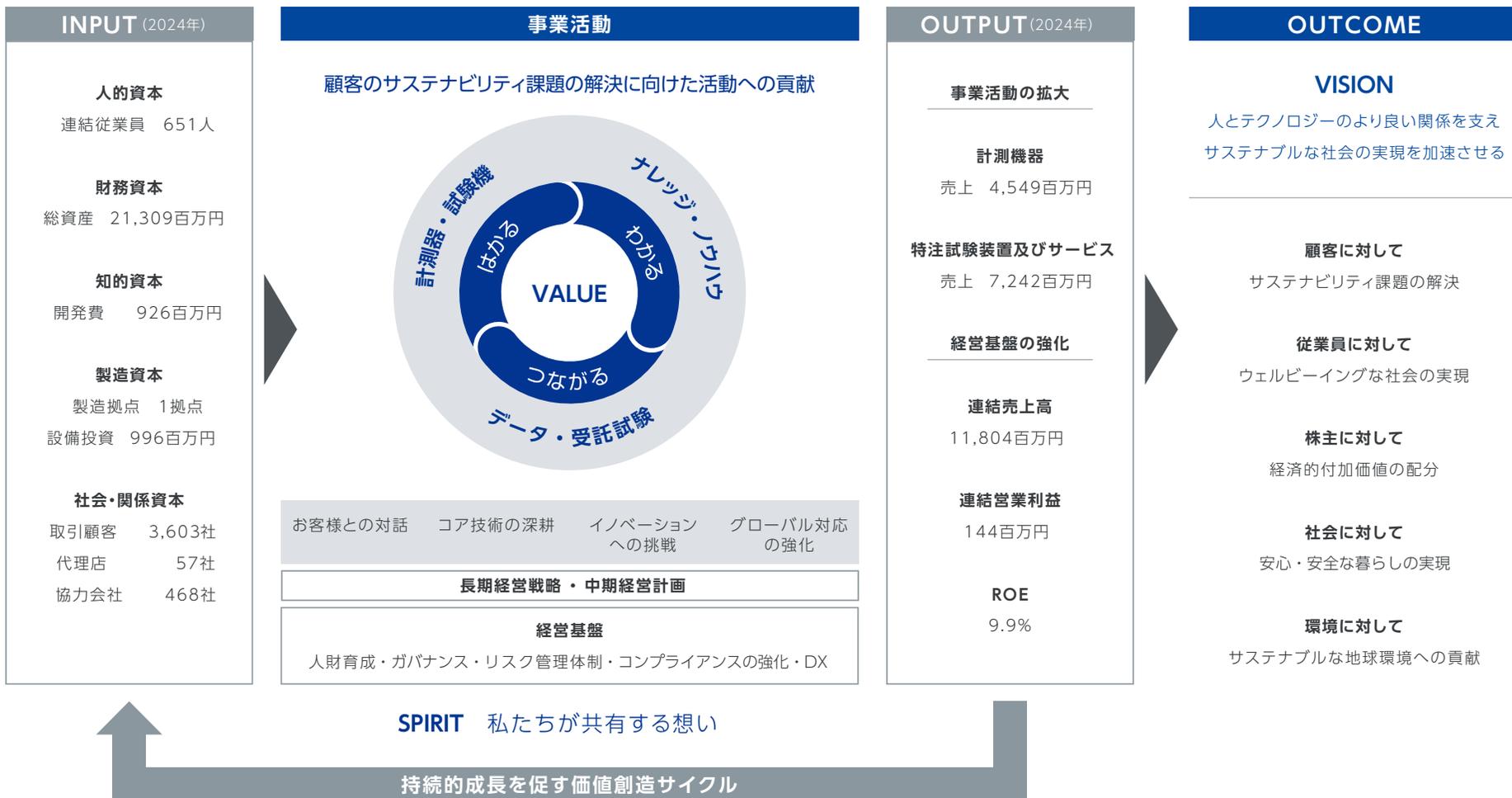
ここ数年で会社は着実に変わってきています。一人ひとりが過度なプレッシャーを感じるのではなく、良い緊張感をもって結果を導き出してほしいと思います。また他責ではなく、自らの意志で責任を持って仕事に取り組む姿勢を会社としても応援していきたいと考えています。私はそんな従業員と一丸となって飽くなき挑戦を重ね、「未知を拓く」ことで笑顔あふれる未来をつくっていきたくと思っています。

企業理念



価値創造プロセス

MISSION 未知を拓き、未来を創る



※数値は2024年12月31日時点

マテリアリティ

小野測器は、創業の精神「誰もやらないから、挑戦する価値がある」に基づき、下表のとおりマテリアリティ（重要課題）を定めています。このマテリアリティは、当社の持続可能な成長

のために、経営上の課題として社会的・環境的・経済的視点で特定されたものです。

当社のミッションは、「はかる」力を通じて「未知を拓き、未来を創る」こと。未知なる現象に真

摯に向き合い、より安心・安全・豊かな人々の暮らしを支えていく、これを持続可能なものとするために、中期経営計画Challenge Stage Ⅲの最終年となる2024年にマテリアリティを設定し、

2030年に向けて取り組むべき課題として位置付けました。これらのマテリアリティに基づいた取り組みを推進し、事業活動を通じてさまざまな社会価値と経済価値の創出に取り組んでいきます。



マテリアリティ	中期計画	アクション	SDGs
共創共存し持続可能な社会 ライフサイクルを通して、地球環境に配慮した企業活動を推進します	<ul style="list-style-type: none"> 企業活動から排出されるCO₂の削減 開発効率の向上による環境負荷低減 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電設備設置による自家発電 グリーン電力への切り替え LCAの運用 MBDの推進 	
安心・安全に暮らせる社会 新たな価値創造による社会課題ソリューションを提供します	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷低減型製品/ソリューションの提供 世界の産業を安全かつ安定的に支援 イノベーションの創出による成長 専門知識の蓄積及び競争力の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 市場ごとのニーズをとらえた商品提供 グローバル拠点の販売網拡大 コトビジネスへの参入 新規事業の開拓 独自技術の深耕及び後進育成の推進 	
ウェルビーイングな社会の実現 誰もが公平で安心して働ける、働きがいのある職場環境を目指します	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人財の育成 DE&Iの促進 時代に即した職場環境づくり 社会との共創/未来を創る世代とのつながりの強化 	<ul style="list-style-type: none"> 社員育成プログラム 多様な人財の育成及び採用 人事考課制度の改革 働き方が選べる職場環境の整備 産官学連携の活動推進 未来世代への教育支援 	
企業基盤の強化 適切な組織統治及び価値創造のため、企業基盤を強化します	<ul style="list-style-type: none"> 多様なステークホルダーに対して、高い透明性のもと公正で健全な信頼関係を築く 	<ul style="list-style-type: none"> IR/広報の強化 ガバナンス体制の強化 コンプライアンス推進体制の整備 報酬制度による事業計画へのコミットメントの明確化 取締役会による適切なリスクテイクに対する支援 	

株式会社小野測器は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています